

☎ 591-7376
akitojcp@li
vedoor.com

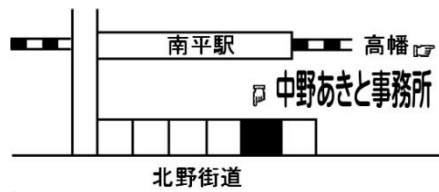
中野あきと事務所ニュース

みどり清流

2002年7月発行 第8号

日本共産党 中野あきと事務所
日野市南平7-6-72 ☎599-3350
発行責任者 小山敏正

生活・法律相談など
お気軽にお立ち寄り下さい



地方分権化の動きに逆行

市議会の質問時間の短縮

日野市議会の本会議での議員一人に与えられた九〇分の一般質問には三十年にわたる歴史があります。それ以前は時間の制限すら無かったのです。それを与党は六〇分に縮めることを強行しました。

一般質問は議員が直接市長や助役に問うことのできる貴重な機会です。通常年四回しか行なわれません。現行でも時間内に収めることに苦心している議員は沢山います。

ところが全くやらない人もいます。議員の本分はもっぱら顔を利かせたムネオバりの『口利き』と本気で心掛けてはなりません。

得ている先生方には、一般質問など無用なものかも知れません。

いま地方分権化が言われ、自治体の担う役割がさらに大きなものになるにつれ、地方議会の充実もますます大切な課題です。日野市議会の動きはこれと全く逆行と言わなくてはなりません。

理由も語れず採決を強行

『提案者も、改訂の趣旨を答弁する者もない』六月議会最終日の本会議、こんな無責任な状況のもとで一般質問時間の短縮が決められた。面倒な議論は避けようと、与党側は何を聞かれても委員長報告の「議運で決まったことです」で終始。唯一の理由とした「議会の効率的運営」について一言も語ることなく採決だけを強行した。

草の根から

「駅から家まで歩くしかないのに大変な坂また坂。腰かけるベンチもないし、本当に外出がおっくうになる……」。平山六丁目の方からのこんな話。

坂のまち日野の中でも有数の傾斜地で、交通不便地域。市内南部で最も早い開発地域は、いま高齢化問題が深刻で、交通問題による願いは切実です。

昨今、「バリアフリー」「ユニバーサルデザイン」のまちづくりがうたわれています。が、その大きな柱にすべきは権利でもある『移動の自由』の保障です。

「高齢者、障害者の移動の自由を」「市はその保障を」「ミニバス、ワゴンタクシーの導入・充実に全力をあげます」

中野あきと

悪法は廃案に!



医療改悪反対 有事法制許すな

南平2丁目

産廃ごみが撤去される

昨年、南平2丁目洋服店『青山』裏の空き地に産廃ごみが積み上げられている問題は、この5月に取り除かれ、解決がはかられました。

この問題は昨秋、住民の方などから中野議員に相談があり、村松前都議と市や都へ繰り返し申し入れを行っていたものです。



市民討論集会

まちづくりの在り方が問われている

病院用地の売却問題で

市と「全農」が、高幡の医療施設用地を藤和不動産に売却した問題をめぐって七月十四日、市民討論集会が開かれました。

この集会には用地周辺の住民や「病院をつくる会」の関係者、東電の変電所建設に反対する「高幡環境を守る会」の人たちが会場に詰めかけ「進入路が計画され向島新水路が台なしにされそうだ」「広場の代替え地だとして、緑が破壊されようとしている」「など、高層マンションの建設にともなう市のまちづくりの問題点が発言されました。

また複雑な問題を抱えた地元自治会が七月七日、「藤和」との間で「覚書」を取り交わし、事実上の同意の意思（多数決で自治会長に一任）を示すという

7月16日付『しんぶん赤旗』日刊紙記事



記者会見する市田書記局長＝15日、国会内

いざらしい明らかにすべきだ」とのべま

長野県知事失職
不信任反対の
立場で対応
市田氏はまた、同日午

後長野県の田中康夫知事が失職・再出馬の意向を表明したことについて、「無駄な公共事業見直しの公約を実践しようとして県議会に不信任されたことを田中氏が厳粛に受け止め、改革は道半ばだとして県民に信を問う選択をしたことは、きわめて賢明で常識にかなった態度だ」と評価。党としての対応は「長野県委員会が判断すべき問題だが、不信任案に県議会が唯一反対した立場から考

宮路副大臣

辞めて済む問題ではない 市田書記局長が批判

日本共産党の市田忠義書記局長は十五日、国会内で記者会見し、宮路和明公正労働副大臣の辞任について「入試口利きへの反省がまったくない。辞めて済む問題ではない」と批判しまし

市田氏は、宮路副大臣が辞任にあたり、医療改悪法案を運ぶために「潔く身を引く」と発言したことと触れ、「国民に負

そのために、参院厚生労働委員会での参考人招致が「最優先課題」であり、法案審議の前提だとい

後長野県の田中康夫知事が失職・再出馬の意向を表明したことについて、「無駄な公共事業見直しの公約を実践しようとして県議会に不信任されたことを田中氏が厳粛に受け止め、改革は道半ばだとして県民に信を問う選択をしたことは、きわめて賢明で常識にかなった態度だ」と評価。党としての対応は「長野県委員会が判断すべき問題だが、不信任案に県議会が唯一反対した立場から考

東電の変電所建設

工事ストップ・話し合いが再開

5月21日から工事が強行されていた高幡地区の東電による変電所建設は、6月24日工事がストップし住民と東電との話し合いが再開されることになりました。

6月の市議会でも中野議員は、住民の理解や同意もおかまいなしで乱暴に工事着工に踏み切った東電の姿勢を告発。市に断固とした指導をするよう要求しました。

これを受けて市長も「もう一度東電と話し合ってみる」とこれまでの「やむなし」としていた市の立場を撤回。工事のストップと話し合いが再開されることになりました。

市長は住民の代表として問題の解決を

『しんぶん赤旗』のご購読を

購読料（一か月分）

お申し込み

日刊紙 2900円

最寄りの党員か

日曜版 800円

下記へ

●中野事務所

●南多摩事務所

☎599-3350

☎582-0505

短信

知事の答弁中ヤジと怒号、制止すべき議長も一方的に「休憩」を宣言してマイクの電源を切る。公約を実行しようとした知事を不信任した長野県議会のダム推進派の暴挙です。これを激励する助っ人まで現れました。「頑張れ」という檄文に栄養ドリンク剤まで添えて。吉野川可動堰を推進する徳島の県議会の自民党です（12日付・赤旗『潮流』）。▽田中知事はいいます。強行にダム建設を主張する勢力があることについて「私たちの理解を超えた奥深い何か横たわっている」と、「それを変えなければならぬ」とも。▽市政も同じです。南部地域住民の「医療施設を」の要望も切り捨て、まちづくり破壊のマンション建設。なぜ経営にとかくのうわさのある「藤和」が選定されたのか。なぜ一六〇戸のはずが二〇〇戸になったのか。林立する「絶対反対」のたて看板も押しのけて。▽父母・市民との「合意」も眼中にない学校給食の民間委託の実施。反対する人も賛成する人も慎重審議を求め一万を超す署名を積み上げたはずです。▽道理のないことを承知の施策推進の背景に「奥深い何か」があります。それを「変える」たたかひが必要です。